



最高の仲間との最高の天中祭

みんなにとっての最後の天中祭が終わりました。ひとりひとりに、一生心に残るような思い出ができたのではないのでしょうか。練習だけでなく、本番でもいろいろなことがあって、喜んだり、憤ったり、楽しんだり、哀しんだり、とさまざまな感情を経験したことと思いますが、その経験こそ、天中祭でしか味わえないもの。最高の仲間と味わった、最高の天中祭をどうかいつまでも忘れないでください。

思い返してみると、今でも胸が熱くなるのは3年生の学年合唱。あの力強い歌声と美しいハーモニーは、確実に、1・2年生の子たちの心を揺さぶり、先生方や保護者の方々の心を震わせたことでしょうか。あれだけの素晴らしい合唱を創りあげたあなたたちなら、これからも協力し合い、仲睦まじく、そして堅実な学校生活を送っていけるはずですよ。残された中学校生活を今まで以上に実りあるものにしていきましょう。

自ら進む道を選ぶために

さて、これからのあなたたちがすべきことは進路選択です。10月の第3週に行われる三者懇談では通知表が手渡され、先週までに提出してもらった進路希望調査を基にしてどのような進路を選択していくかを保護者の方も含めて話し合います。

その三者懇談の前に、先週から各学級で担任の先生との二者懇談を進めています。14歳、あるいは15歳にして、これからの自分の進路を選択し、決定していかなければならないというのはとても大変で困難なことだと思います。しかし、この先のあなたたちの人生をつくっていくのは、あなたたち自身。もちろん、保護者の方を始め、先生たちもその手助けをすることはできますが、最終的な判断、決定はあなたたち自身が行うのです。普段は担任の先生とじっくり話す機会がなかなかもないでしょうから、この二者懇談で、今、悩んでいることや気になっていること、不安に思っていること、聞いてみたいことなど、ぜひ打ち明けてみてください。人に話すことで解決したり、すっきりしたりするということは、多くあるはずです。

立秋の日に詠まれた和歌だそうです。立秋はだいたい八月八日ごろですが、曆にずれがあるため(国語の授業で習ったから、覚えていきますね?)現代では夏真っ盛り。ですから、ちょうど今ぐらいの時季にぴったりなの和歌ではないかと思えます。現代にも通ずるこの感覚。昔も今も、日本人の繊細さは昔も今も変わらないのだなあと思えてきます。現代にも通ずるこの感覚。昔も今も、近年、過ごしやすいく秋がめっきり短くなってしまっているように感じられます。しかし、日本人だからこそ感じ取る季節の移り変わりをじっくりと味わいたいものです。

秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

秋が来た目にははつきりと見えなけれど、

風の音にはつとさせられることだよ

藤原敏行

